マツバウンラン

マツバウンランも最近急激に増加しました。北アメリカ原産の帰化植物ですが、秋に発芽して冬を越し、春から夏にかけて開花、結実する越年草（二年草とも言う）です。

直径 1cm ほどの紫色の花を穂状につけ、一見園芸植物のヒメキンギョソウ（リナリア）と見間違える姿で群生し、荒地に彩りを添えています。

富士市では 1990 年頃から急に広がったと考えられます。旧富士川町域には、あまり見られません。

ツタバウンラン

帰化植物には急激に増加する種がありますが、ツタバウンランは全然増えません。マツバウンランと名前の後半が一緒で、花の形も似ていますが、分類上では別の仲間になります。

マツバウンランと違い、茎が地面をはうように広がります。

大正時代に観賞用として導入した園芸種が野生化したものです。富士市では、2001 年頃初めて確認されましたが、なぜか増加していません。同様にブラジルコミカソウもあまり広がっていません。